

素粒子原子核研究所 行動規範 (Code of Conduct)

April 2024

序文

KEKの素粒子原子核研究所は、素粒子・原子核物理学のフロンティアを探求し、宇宙の謎を切り拓くことを目標としています。また、国際的な協力体制のもと、加速器を使った最先端の研究と人材育成に取り組んでいます。さらに、研究を支える基盤技術を継承しつつ、高い要求性能への挑戦を続けています。

この目標を達成するためには、性別・国籍などにかかわらず多様な人々がお互いを尊重し、率直に意見を出し合える建設的な職場環境を整備する必要があります。また、研究活動で得られた知見を積極的に発信し、基礎科学に対する社会からの幅広い理解と協力を獲得することが重要です。

そのために、素粒子原子核研究所の活動に携わる私たちは、関連法令・KEKの行動規範^{*1}に加えて以下に示す規範を尊重して行動します。この「私たち」とは、本研究所の職員に限らず、共同利用研究者など本研究所に関わる全ての人々を指します。

この行動規範は、定期的な見直しを行って最新の知見に基づいた内容へと改訂していくべきものです。

知的誠実さ

私たちは、知的誠実さを持って真摯に研究に向き合います。

意思決定に際しては、自分の意見や思い込みに固執せず、新しい考えや批判を受け入れて建設的な議論を進めます。

定められたルールを遵守し、不正を疑われることのないよう注意深く行動します。業務に関連した権限は、いかなるときも個人的利益のために利用しません。

私たちの研究活動は、多くの人材・予算・資材などの資源を必要としていることを常に意識し、社会の理解と協力のもとに成り立っていることを認識します。得られた成果はひろく社会のものであることを理解して尊重します。

研究活動の中で得た情報は、実験・計算の結果や二次的に生成された成果物を含め、公正かつ注意深く取り扱います。研究成果の発表においては自らによる成果と他者による成果を明確に区別します。

私たちは、素粒子・原子核の研究活動に携わる専門的知識を持った人間として、良心的な社会の一員として行動する責任を担っていきます。

^{*1} <https://www.kek.jp/ja/compliance/misconduct/conductcode-2/>

透明性

私たちは、透明性を大切にします。

関係機関・関係者に対して情報を公正かつ適切に開示し、対話を通じて信頼関係を構築していきます。利益相反や責務相反のおそれがある時はそれを明示し、疑念を持たれないよう行動します。開かれた議論を重視し、研究活動及び組織運営に外部の研究者や専門家の意見を取り入れます。

また、科学コミュニケーションにおいては、研究によって得られた知見を積極的に発信し、幅広い理解を得られるように努力します。社会の皆様、とりわけ地域住民の方々と双方向の対話によって信頼関係を深め、説明責任を果たします。

多様性・公正性・包摂性

私たちは、多様性 (diversity)・公正性 (equity)・包摂性 (inclusion) を人類にとって重要な普遍的価値として認め、尊重します。

個々の違いを認識し、敬意を持って他者に接します。想像力を働かせ、多様な視点に考えを巡らせることで、性別・国籍などを含むあらゆる属性*2に基づく差別やハラスメントとは無縁な職務上の関係を目指します。

私たちが共通の目標に向かって前進するためには、すべての人々が歓迎されていると感じ、各自の事情に応じた合理的な配慮を受けることで、能力を十分に発揮して意義のある貢献ができるようにすることが重要です。また、互いに気兼ねなく率直な意見を出し合うことができるような、建設的かつ効率的な職場環境にすべく努力します。そのために、ありふれた日常の中にある軽微な侵害行為*3にも意識を向け、それらを減らすための行動をとります。

次世代育成

私たちは、私たちの研究コミュニティの将来を重視し、若い世代の育成に力を注ぎます。

若手研究者が研究において成長できるように、時代に即した、彼らが安心して活躍できるような環境の整備を進めます。大学院教育に携わる場合には、高い研究能力と研究倫理を持つ人材の育成に努めます。また、学部生・高校生などのより若い世代と交流する際には、素粒子・原子核研究の楽しさを伝えていきます。

私たちは、若い人たちと謙虚に向きあい、次世代の育成を通じて自らも学びながら成長を続け、世代を超えて知見や技術を引き継いでいきます。

安全

私たちは、常に安全を最優先に考えて行動します。

働く人の身体と健康を守り、安心して研究を遂行できる環境の構築に全力を注ぎます。

加速器に関する放射線安全管理の徹底はもちろんのこと、電気・機械・高所作業・高圧ガス・化学・レーザー・環境保全・情報セキュリティなど、各自の職務に応じて必要となる安全知識を身につけます。また、リスク管理を適切に実施して職場全体の安全向上に取り組みます。

私たちは、安全な環境と安全意識の維持には継続的な努力が必要であることを理解します。常に改善を続けることで、私たち自身で安全を守り大切にする文化を醸成していきます。

*2 性別、国籍、人種、民族、信仰、性的指向、性自認、年齢、婚姻状況、障害の有無、政治信条などの、職務と直接関係のない個人的特徴。

*3 あからさまな差別・ハラスメントとは言えないまでも、相手にやり場のない不条理感を与える言動や態度。無意識の偏見・差別、知識不足や想像力の欠如に起因する無自覚な行為であることが多く、軽微であるからこそ当事者・周囲にも看過されがちである。